

## ドクターインタビュー

笹井 みさ(ささい みさ)先生

医療法人彰療会 大正病院 小児科(アレルギー科)

JR・地下鉄「大正駅」から南へ10分。大阪市西部に位置する大正病院は、昭和28年創設以来近隣の診療機関と連携し地域住民の健康管理を担っています。同病院の小児科・アレルギー科の専門医で、地域のホームドクターとして活躍しておられる笹井みさ先生にお話を伺いました。

——先生が小児科医を目指されたきっかけなどお聞きかせください。

父は外科の開業医をしていました。子どもの頃は父が治療をしているのを覗きに行くのがとても好きで、外科医になりたいと思っていました。また、母方祖母は帝国女子医学専門学校(今の東邦大学医学部)3期生で小児科医でした。海外旅行が好きなどとても素敵なおばあちゃんに憧れていました。小児科医になったのは、祖母の影響も大きいと思います。そして一番の理由は、毎日子どもと接しているのがなにより楽しいということですね。

小島崇嗣先生(小島医院院長・兵庫県三木市)の影響を受け、アレルギーについて専門的に取り組みました。私には娘が3人いますが皆食物アレルギーがあったので、そのこともアレルギーをもっと勉強しようと思ったきっかけです。

——食物アレルギーについて、日々の診療で感じておられる事や最近の患者さんや保護者の方の変化などございますか？

保護者の方がとても過敏になっておられると感じます。保育所や学校で除去食をお願いする場合、まず血液検査結果と医師の記入した生活管理指導票を求められます。ただ、検査結果が全てではなく、結果が陽性ならすべて除去してしまうのか、という問題があります。私がアレルギーに関わり始めた20数年前は、本当に厳格除去が基本でした。その頃に厳格除去をし過ぎて怖くて食べないまま、大きくなってからどうしたらいいかと診察に来られる方も最近気になるところですね。検査が陽性なだけでずっと除去してしまったために、食物アレルギーを作ってしまうことになるのは良くないと感じています。

最近増えてきた食物アレルギーで、大豆の中でも豆乳だけに反応する方がいます。成人に多いのですが、小児でも高齢児で豆乳やもやしに反応するけど、納豆、味噌は大丈夫という児がいます。これは花粉症がまずあって、それによく似た蛋白構造を持つ食物にもアレルギー反応を起こしてくるもので、花粉関連食物アレルギー症候群(PFS)と呼ばれています。臨床症状と関連性の強いアレルギーコンポーネントの検査が可能になり、そういう症例ではGly m4が高いことで診断が出来ます。小麦ではω-5グリアジンが高いと即時型小麦アレルギーの可能性が高くなります。卵ではオボムコイド、ピーナツではAra h2などがあります。

——誤食時の初期評価、アナフィラキシーに気づく方法などございますか？

誤食したことがはっきりとわかっていれば、咳がアレルギー症状だと分かると思いますが、誤食したことがわかっていない場合はなかなか難しいと思います。皮膚の症状がなくても、咳が出て(呼吸器)激しい腹痛(消化器)があればそれはアナフィラキシーということになります。

最重症な症状として、意識混濁などがありますが、乳児の場合分かりにくいですね。アレルギー症状が起こった後というのは、寝てしまう子もいて、見分けがつかなくなってしまう。乳児で多いのは最初に咳が出るなどの呼吸器症状のあと、興奮している状態になってからぐったりしてしまうというケースです。

——エピペンの効果、有害事象について詳しく教えてください。

初めてのエピペン使用の判断は難しいと思います。誤食と分かっているならば、何か変化があればまず処方されているお薬を飲む、症状が急激に進んでいくなら、エピペンを迷わず打つなどの対処をしてください。エピペンは、5分ぐらいで劇的に効きます。ただし、20分ぐらいでエピペンの効果は切れると言われてるので、打った後は必ず救

DOCTOR INTERVIEW



笹井 みさ(ささい みさ)先生のプロフィール

**【略歴】**  
 1987年3月 関西医科大学卒業  
 1987年4月 関西医科大学小児科入局  
 1987年10月 済生会泉尾病院小児科出向  
 1988年4月 松原市立松原病院小児科出向  
 1990年4月 関西医科大学小児科大学院入学  
 1990年10月 関西医科大学衛生学教室にて分子生物学的な実験に携わる  
 1994年3月 関西医科大学小児科大学院卒業  
 1994年4月 関西医科大学小児科研究委員  
 1995年11月 関西医科大学小児科大学院研究科課博士学位所得  
 : Human Trehalase; Characterization, localization, and its increase in urine by renal proximal tubular damage.  
 2006年3月 彰療会大正病院小児科出向

日本小児科学会専門医  
日本アレルギー学会専門医

DOCTOR INTERVIEW

急車を呼ぶなどして受診してください。当科では、エピペン処方時、エピペン使用の判断基準の表も一緒にお渡ししています。

アナフィラキシーの症状ではないのにエピペンを打ってしまった場合、起こりうるかもしれない有害事象は、アナフィラキシーの時とは変わらず、頻脈、動機、手足のしびれ、吐き気などがありますが、それはすぐに回復しうるものです。

——食物アレルギーの患者さんが薬を使用するとき気をつけることなどございますか？

薬に卵成分や乳成分などが入っているものがあり、代表的なものでは卵の場合、塩化リゾチーム、レフトーゼなどがあります。市販の風邪薬に塩化リゾチーム入りのものがあるので気を付けてもらいたいですね。止痢剤のタンナルピンは乳アレルギーの方がアナフィラキシーを起こしやすいので注意が必要です。あと、整腸薬(乳酸菌製剤)に含まれるカゼインや、吸入剤のフルタイドやリレンザなどに含まれる乳糖などはごく微量ですが、重症の場合、反応する方がおられます。また、夜泣きなどに処方される甘麦大棗湯(カンバクタイソウトウ)は小麦を含む漢方薬ですので気をつけましょう。

——患者さんと保護者の方にメッセージをお願いします。

食物アレルギーやアトピー性皮膚炎は保護者の負担が大きく、すごく大変だと思います。私も娘たちに食物アレルギーとアトピーがあったのでよくわかります。食事は毎日のことで、楽しく食べられることが一番です。私はそれをあまりマイナスには考えず、除去食をすること、アトピーを悪化させる食品を避けることで家族の食生活を見つめ直す良いきっかけとなり、料理が楽しいと思えるようになりました。最近、ベビーフードばかりの方が多いですが、面倒だと思わず家族の食事の調理途中で取り分けてみてください。

あとは、分からないことは周りにいらっしやる自分のお母さんやお姉さん、子育ての経験者の方に相談されるといいと思います。ネットだけに頼って情報を鵜呑みにせず、いろんな人に話を聞いたり、相談出来る人を作るようにしていけたらいいと思いますね。

——ありがとうございました。

とても明るくやさしい印象の笹井先生。趣味は音楽で、週末は本格的にバンド活動をされておられるそうです。